

## カンボジア 2008年人口センサス 実地調査の様子

2008年3月3日午前零時を調査時点として、人口センサスがカンボジア全国で一斉に実施された。カンボジアでは、人口センサスは、統計法により10年に1回実施することになっており、今回は、1962年、1998年に続き、カンボジア史上3回目であった。

我が国は、この人口センサスに対して、大使館及びJICAを通じて、総務省統計局が中心となって技術協力及び資金協力（人口センサス経費の約半分を負担）を実施しており、また、国連人口基金（UNFPA）やドイツ政府も、我が国と連携して技術協力や資金協力を実施している。



写真1 人口センサスの広報の一環としてカンボジア国内の要所々に掲示された横断幕

今回の人口センサスは、カンボジア国内に在住もしくは滞在するすべての人、すなわち、カンボジア人のみならず外国人も調査の対象とし、2月29日から3月13日にかけて2週間（なお、2月29日から3月2日までの3日間は世帯名簿作成）にわたって実地調査が実施された。この間、フン・セン首相の人口センサスに関する声明が、テレビ、ラジオや新聞等を通じて連日放送され、また、チャイ・トーン計画大臣も、調査時点の2008年3月3日午前零時に、自ら実地調査に立ち会うなど、国民に対して人口センサスへの協力を積極的に呼びかけたことが、今回の成功に導く大きな要因の1つとなった。

一方、我が国側も、秋葉賢也総務大臣政務官及び篠原勝弘駐カンボジア日本大使が1月14日のカンボジア計画省新庁舎竣工式（我が国の全面的な援助により人口センサス支援の一環として建設）の席上で、人口センサスの重要性等を訴え、このことが、カンボジア国内にマスコミを通じて大きく報道されたことから、人口センサスの円滑な実施を後押しすることとなった。



写真2 我が国の援助により建設されたカンボジア計画省新庁舎

人口センサスの実地調査を担当する調査員約3万人は、多くが教員又は地方公務員であり、その半数以上が前回の1998年人口センサスを経験していた。彼らの調査に対する姿勢は真剣そのもので、また、世帯の対応も良かったので、質の高い結果が得られたものと期待している。



写真3 カンボジア人口センサスの調査員

しかしながら、今回の人口センサスは、以下のような厳しい条件の下で実施されたことを付言しておく。まず、調査票は 81 の調査項目からなっており、人口センサスとしては、調査項目が多く、質問の内容も難易度が高かった。ちなみに、我が国の国勢調査は 22 項目（大規模調査時）である。次に、予算制約上、雇用された調査員の数が約 3 万人と少なかったため、1 人の調査員が担当する地域が約 6km<sup>2</sup> と広がった。これは、我が国の国勢調査と比較すると、約 16 倍の面積に相当する。カンボジアの気象、道路事情、バイクや自転車の所有率等を考慮すると、かなり厳しい条件であることがわかる。その次に、調査員は、3 米ドル/人日と、かなり低い水準の報酬しか受け付けていなかったため、特に地方において、担当地域の面積が広い場合には、調査のための移動にかかるコスト（バイクの燃料費等）が 3 米ドル/人日では足りないこと頻繁に起きた。さらに、カンボジア国内には、少なくとも 28 種類の民族が居住しており、必ずしも全国民に公用語であるクメール語が通じるわけではないことなどが挙げられる。

このような厳しい条件の下、今回の人口センサスの実地調査が無事に終了したことは、賞賛に値することがわかる。



写真4 プノンペンにおける実地調査の様子

今回の人口センサスからは、以下のような基本的な統計が得られる。全国のみならず Province、District、Commune 及び Village ごとに、男女・年齢別人口を始めとして、識字率、就業率、失業率、産業構造、職業構造、出生率、死亡率のほか、母語別、宗教別人口、昼間人口など。さらに、テレビ、携帯電話、自動車、バイク、自転車、パソコン、インターネットの普及率など、国連が提唱する MDG(Millennium Development Goals)のモニタリングに必要な指標を多数提供する予定である。

これらの結果は、速報（男女別人口、世帯数）が 2008 年 9 月、確報が 2009 年 7 月に公表される予定である。

最後に、カンボジア人口センサスに関する情報が掲載されたページを以下に紹介する。

<http://www.stat.go.jp/info/meetings/cambodia/census08.htm>